

言葉は相手への贈り物。
優しさの輪を広げたい



うしだ なみこさん(大東町)

4月から大府西中学校で国語の指導をする傍ら、巧みな表現力で絵本を手掛けるうしだなみこさん。昨年7月に発売した絵本『ぼくが髪を伸ばすわけ』が全国で話題を呼んでいます。

この絵本は、ヘアドネーション(※)を題材にした絵本で、小学5年生の男の子が、小児がん治療の副作用で髪を失った少女のために、髪を伸ばしていくという物語。絵本を描ききっかけは、4年前に小さな男の子がヘアドネーションをしたという新聞記事を見たこと。「小さな男の子がヘアドネーションを考えているなんて、素晴らしい。この活動をみんなにも知ってほしい」と思い、特技である文章力を生かして、絵本を描き始めます。

絵本では、主人公にあえて10歳の男の子を選択。キャラクター設定へのこだわりについて、「10歳という年齢は、自分の意志がはっきりしてきます。『なんで男の子が髪の毛を伸ばしているの』など、さまざまな問題にぶつかる年頃です。若くても自分の意志を貫き、誰かのためになりたいという強い気持ちを絵本で表現したかったです」と話します。

10歳の男の子の強い意志が読者の共感呼び、全国から反響があることで、「小学校の道徳の授業で活用されたことがあり、子どもたちから『誰かのために何かしてあげたいな』というメッセージ

をもらいました。自分が表現したかったことは、しっかり読者に伝わっていたことを実感しました」と話し、続けて「この経験を通して、誰かのために何ができるのか考え、今後は実行することの大切さを伝えていきたいです」とさらに先を見据えます。

言葉は相手への贈り物だと話すうしださん。現在は『ぼくが髪を伸ばすわけ』の第2弾を制作中で、第1弾では語られなかった少女目線の思いを描いているそうです。今後について「これから全国の小学校に絵本を寄贈して、子どもたちが『誰かのためにやりたい』という気持ちが生まれるよう、活動を続けたいです」と目を輝かせて話します。うしださんが生み出す言葉の贈り物が全国の子どもたちへ届き、優しさの輪が広がることが楽しみです。



みさちゃんのために、ほくくできることはあるかな。

みさちゃんには、いつも笑っていてほしいから。夢を叶えてほしいから。

ぼくは、こうた。小学5年の男の子。この前、髪を抜けていけなかった。

大好評販売中
絵本公式ウェブサイト
からも購入可能



ぼく髪 🔍 検索

※ 頭髪を失った人のために、寄付された髪の毛でウィッグを作り無償で提供すること。

cover

4月6日に市内で行われた東京2020オリンピック聖火リレーの第1走者を務めた大石康さんをカメラに収めました。ライブストリーミング用の大きな車が、大石さんの前を走っていたので、大石さんを確認できたのはほんの一瞬でした。聖火ランナーを務められた皆さん、本当にお疲れさまでした。

